

戦後、沖縄に豚を送った県系移民へ感謝を込めて開催された「BEGIN 豚の音がえしコンサート」 17日、うるま市民芸術劇場



豚送った移民に感謝



【うるま】戦後、食糧難となつた沖縄に豚50頭を送ったハワイ県系移民に感謝しようと「BEGIN 豚の音がえしコンサート」(うるま市教育委員会主催、琉球新報社共催)が17日、うるま市民芸術劇場で開かれた。満員の観客は、BEGINの歌声に聴き入り、古里を思い続けた県系移民の「肝心」に思いをはせた。

第2次世界大戦後、ハワイの県系移民は「布哇連合沖縄救済会」(金城善助会長)を結成。募金や物資を集め、その資金で50頭の豚を買い、沖縄へ送つた。豚を乗せた船が着いたのが、現在のうるま市ホ

BEGIN うるま市でコンサート

ワイトビーチだ。その歴史を知ったBEGINは「音がえし」として550本の楽器をハワイに送る活動をしている。

コンサートでは、「ウルマメロデー」という曲で、ハワイアンフラと琉球國祭り太鼓のメンバーが登場。BEGINの比嘉榮昇さんは「沖縄を思いながらハワイで生活する県系人の皆さんに喜んでほしかった」と、曲に込めた思いを語った。

来場したハワイ沖縄連合会のジョージA・バーテルズジュニア会長(55)は「世界のウチナンチュはいつでもつながっている。きょう、それを実感し感動した」と喜んだ。